

2021年09月
AUTUMN
創刊号

ENGAWA Project
iTOP, Kyushu Univ.

エンガワ

あなたとつながる、縁側系広報誌。



ENGAWA Project, from iTOP maebaru.engawa@gmail.com

<https://maebaruengawa.wixsite.com/engawa-gallery>

01

あたらしい“エンガワ”のかたち

わたしたちのちょっとした挑戦



chief 得津 京佳



あなたに手渡しする広報誌が作りたいたい。

わたしたちは九大まちづくりサークルiTOPのなかで、筑前前原に拠点を置いて活動しておりますENGAWA Projectです。このたび、わたしがこのサークルに入ったときからちょっとした夢だった「広報誌」を創刊させていただくこととなりました。わたしの個人的な夢を応援し、一緒に取り組んでくれるメンバーと出会い、こうして実現できたことを非常に嬉しく思います。

SNSで世界のどこまででも情報を発信できる今、アナログな広報誌にこだわることには強い思いがあります。糸島にきて早いことに1年半が経ちましたが、多くの素敵な方々に出会いました。

こんなご時世ではありますが、こんなご時世だからこそ、顔が見えるつながりはわたしの学生生活をグッと豊かなものにしていて感じます。欲張りではありますが、ご縁があつてつながることができた皆さまとこれからもずっと、さらに深く関わっていきたくて心から思います。そのためにわたしたちのことをもっと知っていただいたり、お話のきっかけになったりする、お手紙のような手渡しする広報誌をつくらう

そんな思いで、広報誌をつくってまいりました。ぜひご一読いただいて、ご感想をお聞かせください。

column file01

なつやすみのできごと

みなさんには忘れられない思い出はあるでしょうか。

自分の話にはなりますが、先日20歳の誕生日を迎えました。そこでのお祝いが私にとっての忘れられない思い出です。

8月のある日、私は高校の友人たちと会う約束をしていました。

その友人たちは、9月生まれのために少し早めのサプライズの計画を進めていたようでした。私は一人の友人と共に、集合場所の友人の家へと向かいました。我々二人は家に着いてすぐに洗面所に行き、手を洗いました。先に手を洗い終えた友人は他の友人たちが待つリビングへ。

“バンッバンッパーン” その友人がリビングへと入った瞬間、3発のクラッカーの音が聞こえてきたのです。

私は察しました。「あ、これは私のお祝いだな」と。先に部屋に入った友人の誕生日は3月だからです。どうやって部屋に入るのが正解かわからなかったのですが、とりあえず「これは私の誕生日会であって？」と聞きました。

案の定、私のお祝いだったようですが、打ち合わせがうまくいかなかったようです。ある意味忘れられない誕生日会でした。

たくさん計画をした上で、最後にクラッカーを打つ相手を間違えてしまう友人たちがとてもかわいくてさらに好きになりました。

こうやって離れていても誕生日をお祝いしてくれる友人を大切にしたいものです。



前田 佳凜

ボトルランプ はじめました!

Wはるかでランプ屋さんの謎に迫る!!



和歌山県出身
喜多 悠
はるはる



長崎県出身
山根 春佳
はーちゃん



喜多 今回インタビューに答えてくれるのはギャラリー部門で活動しているはーちゃん! ということでENGAWAのダブルはるかでお届けします。よろしくね。

山根 よろしく緊張する!

喜多 私たちの会話そのままを届けたいから素で話そう!

山根 いいねそれ! めっちゃ方言でちゃう。

喜多 方言でダブルはるか区別してもらおうや笑

ギャラリーってなに?

喜多 さっそくやけど、まずはギャラリーってどんな場所?

山根 ENGAWAのプロジェクトのひとつで、前原でアートギャラリーを運営してるんよ。倉庫として扱われていた場所を今までの先輩方が自分たちの手でリメイクしておしゃれなイベントスペースになったるけんね! 今はコロナで難しかけど、落研の人がイベントを開いたり芸術鑑賞会をしたりしてるんよ。

喜多 それは楽しみすぎるんやけど! でも、そもそもなんでランプなん?

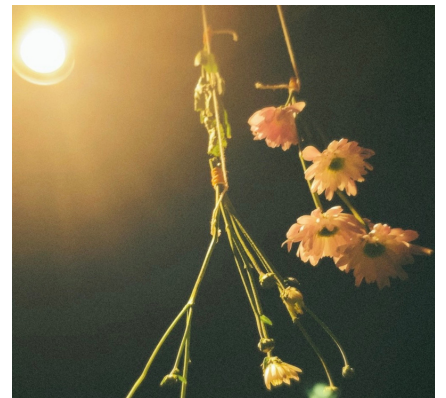
山根 それはね、ギャラリーの黒の雰囲気似合うものを作ってたからなんよ。それに目的は、まず私たちがわくわくするものを作るって体験をして、それをお客さんにお届けすることにあるっちゃんね。あとは、ショップの経営方法を学んだり、ギャラリーの認知度を上げるっていうのもあるとよ。

喜多 その考え方は新鮮かも! 確かにまずは自分たちがわくわくすることをしないと素敵なものは届けられへんよなあ。

最近のとある事業

喜多 じゃあ次に、最近ギャラリー行ったらめっちゃ雰囲気変わっててびっくりしたんやけど、いま何が起こってるん?!

山根 よくぞ聞いてくれました! 今、新たにボトルランプの販売事業を始めたんよ。店の名前は、「深淵のフィラメント」。ランプ屋さんを経営していらっしゃる先駆者の大家さんに教わりながら、一つ一つ作りしているの。暗闇で光るボトルランプは神秘的ですと眺めていられるし、ドライフラワーが中に入ってるから明るい場所に置いてインテリアとしてもめっちゃ綺麗なんよ。



販売までのお話

喜多 私たちも知らへん裏話とかあったら聞いてみたい!

山根 それがね、上手いことばっかりやったんよ。瓶にドライフラワーを入れるという工程一つだけでも、瓶の口が狭くて花が形を保ったまま入らなかつたり、電光とのバランス良く花を中心に入れるのが難しかったり…。どうしたもんか悩んでみんまで悩んでるんな案を実践して何度も作り直したと。コロナだから少人数の作業になって大変だったし。

喜多 そっか、大変やったんやね! その試行錯誤があつた素敵なランプに生きてると思つたら感動もんやわ。

イチオシポイント

喜多 ランプのこだわってる場所はどこ?

山根 それはもちろん、瓶の色、デザイン、大きさ、ラベル、全てのバランスを考えて選び抜かれて、自作ではなかなかできない工芸仕様のランプなどやね。

ギャラリーの今後

喜多 じゃあ最後に、ギャラリーがこの先目指してる姿ってどんな感じ?

山根 ランプ経営を通してギャラリーに訪れる人を増やして、ギャラリーが前原の観光地になるぐらいビッグになることかな。笑顔の溢れる場所になつてもっと多くの人に利用してもらいたかね!

喜多 それはギャラリーのこれからの注目やね! ありがとうございます。

山根 ありがとうございます!

ランプ屋のInstagram
はコチラから!



FILAMENT.IN.ABYSS

あなたとつながる、縁側系広報誌。

縁側は古くから、外の空間と部屋との間にある曖昧な空間として日本家屋独自の意匠となっています。ご近所さんを出迎え話し込んだり、天気の良い日に日なたぼっこをしたりと、気軽な交流や憩いの場として親しまれています。

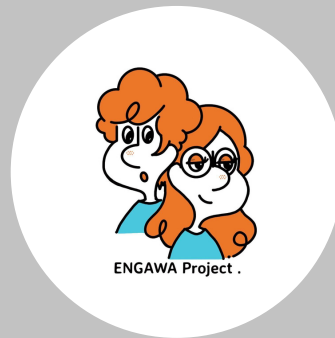
そのようななにかを大学生として作りたい。

それはありふれた建物としての縁側でも、型にはまったSNSでもなく、

手紙のような手渡しされる広報誌なのではないかと考えました。

これはみなさまに見守っていただきたい、私たちのちょっとした挑戦です。

the editors 得津京佳 / 前田佳凜 / 山根春佳 / 喜多悠



ENGAWA Project
from iTOP, Kyushu Univ.

九州大学公認地域活性化団体iTOPで活動しているプロジェクトのひとつ。「筑前前原を学生団体に」を使命に、シェアハウスやイベントスペース、学生居酒屋の運営を行っている。



@ENGAWAproject.maebaru



@engawa_project



@AprojectEngaw